

大沢野道路を対象とした道路 PI に関する調査研究

— 自由意見の分析を中心として —

金沢大学工学部 正会員	高山 純一
国土交通省富山工事事務所	小山 浩徳
金沢大学工学部	○大志万 礼子
金沢大学工学部 正会員	中山 晶一郎

1. はじめに

パブリック・インボルブメント(以下、PI)は、計画案の策定に対して、広く住民意見や意思を調査し、かつ決定のプロセスを共有し得ることであり、住民参加の一つとして近年各地で用いられている。行政においても道路審議会建議策定過程で顧客たる国民の声を収集したキックオフ・レポートなどの形で、PI方式の取り組みが模索され始めている。国民のニーズや満足度を反映させたきめ細かい事業執行と施策展開を図っていくためには、住民意見の把握方法の構築が不可欠となっている。

意見収集のために行われるアンケート調査方法は、多肢選択形式、複数回答形式、順位回答形式などのプリコード回答形式と数値記入形式、単語記入形式、自由記述形式などの自由回答形式の2つがあるが、本研究では、有益な情報が豊富に含まれているといわれつつも、データ処理の煩雑さからほとんど研究がなされてこなかった自由回答形式の自由記述形式に着目している。そして最終的には意見把握に自由記述データを活用する手法を提案することを研究目的とし、自由記述データを様々な方法での分析を試み比較する。今回は自由記述データを手作業で分類分けを行い、コード化し、分析を行うことを目的とする。

調査事例として富山高山連絡道路の一部である大沢野道路(以下、大沢野道路)におけるPI手法を活用した道路計画策定のプロセスで行われた意見募集で得られた自由記述データを対象とする。

2. 大沢野道路 PI 活動の概要

(1)大沢野道路の概要

大沢野道路が通過する大沢野町は、富山県の中南部に位置し、人口約22,800人であり、近年富山市のベッドタウンとして住宅団地の造成が進み、人口が

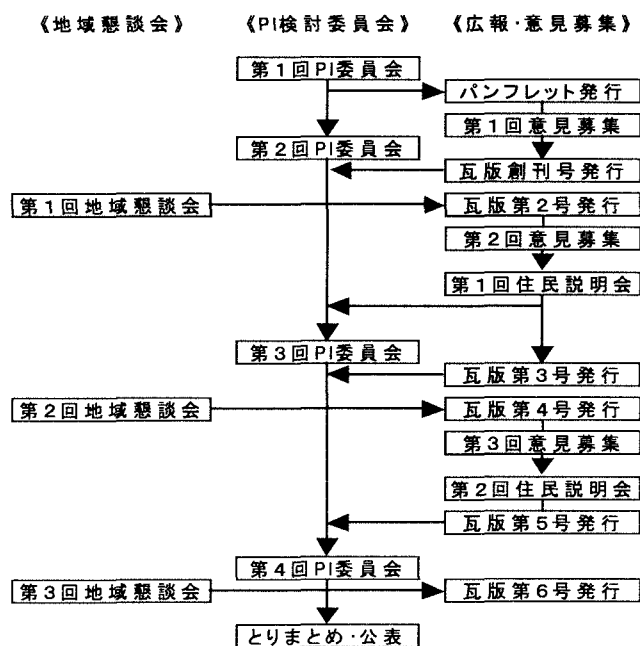
急増している。大沢野道路とは、富山高山連絡道路の一部であり、富山高山連絡道路は、平成6年12月に路線指定された地域高規格道路である。富山市を中心とする富山地域集積圏と高山市を中心とする飛騨地域集積圏とを相互に連絡し、中部縦貫自動車道、北陸自動車道並びに東海北陸自動車道とをあわせて、信頼性の高い循環型ネットワークを形成する。このうち、上新川群大沢野町小糸～婦負群細入村楡原の間延長約6.6kmが「猪谷楡原道路」として建設中であり、この猪谷楡原道路に続いて婦負郡細入村楡原から大沢野町を通過して富山市へつながる約9kmの区間を大沢野道路である。

(2)PIの経緯

大沢野道路活動の当初は、事業の情報を計画段階から提供し、意見募集・地域懇談会等により住民と対話の機会を持つことで、住民の事業に対する理解を深めることが期待できるため、事業に対する理解を得るために特に情報の提供に主点を置いた。PIの運営方針、ルート選定についても意見募集の対象となる場合があるが、現道の4車線拡幅が都市計画決定されているため、地域高規格道路と現道の性格分けを踏まえた意見以外にも、多種多様な意見が集まり、收拾がつかなくなる可能性が高い。早期に結論を出すためにも、PI検討委員会で必要性を確認した後、事業者が最適と判断したルートを示し、インターチェンジの位置とまちづくりへの活用意見を募集する形をとることとした。

PIの導入は、平成13年3月の第1回PI検討委員会からスタートした。大沢野道路PI活動では①PI検討委員会(学識経験者を中心にマスコミ、シンクタンク、関連する民間事業者団体等で構成され、PI活動への意見、助言を行う組織)②PI実行委員会(関連行政組織で構成され、PIを運営していく組織)③地域代

表者による地域懇談会(総代を対象とし、情報提供と意見交換を行う組織)④経済団体・組織による地域懇談会(地元の経済団体などを対象とし、情報提供と意見交換を行う組織)の4つの組織を設け、各組織が連携しながら情報提供や意見募集などのPI活動を進めている。意見募集については、大沢野町全世帯に対して、「大沢野道路瓦版」と称した広報を随時発行し、それに抱き合わせる形でアンケートを配布し、意見募集を行っている。



※地域懇談会：地域代表者による懇談会、
経済団体・組織による地域懇談会
※瓦版：大沢野道路瓦版

図1 PI活動フロー図

3. 自由記述式データ

(1)使用データ

本研究では、大沢野道路PI活動で平成13年12月に第2回意見募集として行われたアンケート調査データを用いる。アンケートの質問項目は属性(地区名)及び①PIについて②ルートおよびインターチェンジの設置について③その他であり、いずれも自由記述形式である。大沢野町全世帯に広報と同時配布し、はがき郵送で回収を行い、配布数6,670通、回収数1,640通(有効サンプル数1,477通)で回収率は24.6%であった。

(2)分類

自由記述データは、1人分の意見でも内容的に複数に分かれるものは分解して分類していくものとする。

分解したデータは内容ごとにいくつかの項目(①PIに関するもの、②ルートに関するもの、等)に振り分け意見の抽出を行う。抽出された意見を項目ごとにナンバーを付けておく。

(3)コード化・分析方法

自由記述データの内容が分かるように1人分ごとにコードを作成し、項目ごとにコードの記入場所を設定し、記述内容に沿って項目ごとに決められた場所に意見に付けられたナンバーを入れていく。図2では、最初の4桁でデータの通し番号(ID番号)を表し、次の2桁で地区を表す。次の4桁でPIに関する意見ナンバーを入れ、順に項目ごとの意見ナンバーを入れていく。

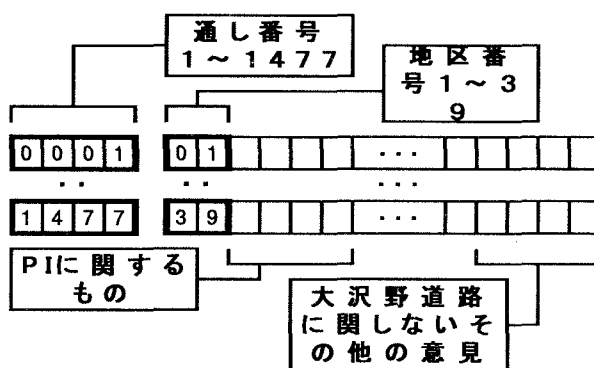


図2 コード様式

このコードから必要な項目の意見ナンバーを抽出し、クロス集計や多変量解析を行う。

4. おわりに

現在は、自由記述データの分類を行っている。データ数が多く、意見数も膨大な数になるので、分類分け及び意見抽出を効率よく行う必要がある。今後の予定として、PI実行委員会にアンケートを行い、アンケート調査の役割等を調査する予定である。

[参考文献]

- 1)前川秀和、高山純一、埴正浩：道路計画におけるPI手法の活用に関する研究、土木計画学研究・論文集 CD-24 no.384 2001
- 2)高田信二、屋井鉄雄：アンケート自由記述による道路ニーズ・不満の定量化分析の提案、都市計画論文集 pp.571-576 2000
- 3)針谷雅幸、屋井鉄雄：道路を対象としたアンケート自由記述の比較分析、土木計画学研究・論文集 CD-24 no.133 2001